

「おやじの会」をご存じですか

毎年、市立小中学校の校長先生や教育委員さんを変えて懇談する機会があります。その懇談会で「中学校では、おやじの会という会があり、子どもたちのために活躍している」という話題が出ました。

「おやじの会！」。皆様はご存じでしょうか。簡単に説明しますと、学校教育の応援団として活躍している父親の会です。保護者が参加する学校行事やPTA活動などは、仕事の忙しいお父さんは時間が取りにくいいため、どうしてもお母さんが多くがちです。そこでお父さんの存在感を示そうと結成されたのが「おやじの会」です。2月現在、市立中学校19校のうち、おやじの会または、それに近い活動を取り入れている学校は8校あります。

それでは具体的な取り組みや運営について紹介します。ある中学校では、学校祭の体験コーナーで、おやじの会のメンバーが魚の三枚おろしやウインナー作りなどを子どもたちに体験させる講座を開催しました。また体育祭では「おやじにチャレンジ」という趣旨で、子どもとお父さんが綱引きで対戦して盛り上げました。ほかに、ふれあい部活動と称して、お父さんが運動部を中心に子どもと試合などを行っています。またある中学校では、地域に

も活動を広げ、清掃活動や夏休み夜間街頭指導を行ったり、地域の祭りにも積極的に参加したりしています。

おやじの会はPTAが中心となって活動していますが、PTA役員OBの「おやじ」にも参加資格を広げたり、地域の「おやじ」に参加を呼び掛けたりしている学校もあります。「おやじ」ばかりでなく「おふくろ」も一緒になって活動している学校もあります。おやじの会が結成されて8年もたっている学校もあれば、結成に向けて準備段階に入った学校もあります。活動内容や運営方法はさまざまでも、校長先生は口をそろえて「お父さんの真剣に活動する姿は、子どもたちの心に多くの栄養を与えている」「お父さんと学校との結び付きが強くなり、おやじの会は学校の支援者として、とても頼りになる存在である」と話しています。

子どもは、大人の大きな愛情が土台となつて育っていきます。幼い時はもちろん、中学生になつても、周りの大人の影響力はとても大きいものです。思春期の子どもは時として、親の存在をうつとうしいと感じることや、親と共にいることを恥ずかしいと感じることがあるかもしれません。だからこそ子どもたちに、自分の親だけでなく、多くの大人たちとかかわる機会を与え

ることも必要となつてくるのではないのでしょうか。

そのかわる機会を持てる場が学校です。父親や母親が教育活動などに参加するのは当然という雰囲気をつくつていけば、学校とのかかわりに抵抗感を持つ親も少なくなるはずで、そして行事に参加する大人たちの姿を見て、子どもたちは親以外の大人も身近に感じることでしょう。その繰り返し、子どもたちの健全育成にもつながっていくと思います。

中学生の子どもたちは近い将来、親になり子を育てます。自分が育てられたことを思い浮かべながら、子どもを育てていきます。明日の一宮の子どもたちのために、「おやじの会」のように積極的に子どもたちにかかわろうとする大人が増えることを期待しています。

